

別表：神奈川県立がんセンターにおけるウェブアクセシビリティ（JIS X 8341-3:2016）に係る配慮事項

- 地方独立行政法人神奈川県立病院機構では、「ウェブアクセシビリティ方針」を定め、2023年3月31日までにJIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠することを目標として掲げています。
- 神奈川県立がんセンター（<https://kanagawa-pho.jp/>）のCMS（コンテンツマネジメントシステム）で全てのJIS規格の要件を満たすことは、過重が大きすぎるため対応ができません。
- そこで、神奈川県立がんセンターのウェブサイトについては、CMSで対応できる範囲で、次のとおり合理的な配慮を行っています。

区分	達成基準 No	項目	レベル	概要/解説	がんセンターホームページの配慮事項
1 知覚可能	1.1.1	非テキストコンテンツ	A	非テキストコンテンツにより伝達される情報を、テキストによる代替を用いることによってアクセシブルにする。	・非テキストコンテンツにより伝達される情報は、テキストによる代替を用いている。
	1.2.1	音声のみ及び映像のみ（収録済）	A	収録済の音声しか含まないコンテンツ及び収録済の映像しか含まないコンテンツの伝える情報を、すべての利用者が入手できるようにする。	・音声のみ及び映像のみのコンテンツはない。
	1.2.2	キャプション（収録済）	A	ろう又は難聴の利用者が、同期したメディアによる提示を見られるようにする。	・音声のみ及び映像のみのコンテンツはない。
	1.2.3	音声解説、又はメディアに対する代替（収録済）	A	全盲又は視覚障害のある利用者に、同期したメディアによる提示にある視覚的な情報へのアクセスを提供する。	・音声のみ及び映像のみのコンテンツはない。
	1.2.4	キャプション（ライブ）	AA	ろう又は難聴の利用者がリアルタイムの提示を見られるようにする。	・音声のみ及び映像のみのコンテンツはない。
	1.2.5	音声解説（収録済）	AA	全盲又は視覚障害のある利用者に、同期したメディアによる提示にある視覚的な情報へのアクセスを提供する。	・音声のみ及び映像のみのコンテンツはない。
	1.3.1	情報及び関係性	A	視覚的又は聴覚的な体裁によって暗に伝えられている情報及び関係性を、その提示形式が変わったときにも保つようにする。	・構造をプログラムによる解釈が可能であるように、シンプルなテキスト文書は、タイトルの前に2行の空行があり、アスタリスクを使ってリスト項目を示し、その他の標準的な書式の決まりに従ってフォーマットされている。 ・入力フォームで「必須」部分が分かりやすくなっている。 ・セルの行と列で項目が関連付けられている。
	1.3.2	意味のある順序	A	コンテンツの意味を理解するのに必要な音声読み上げの順序を保ちながら、ユーザエージェントがコンテンツの代替表現を提供できるようにする。	・CSS を用いて、ナビゲーションバー、ページの本文、及び関連記事を配置している。
	1.3.3	感覚的な特徴	A	全盲の利用者及びロービジョンの利用者は、情報が形及び／又は位置によって伝えられている場合、その情報を理解できないことがある。形及び／又は位置以外の情報を補足することで、形及び／又は位置だけで伝えられている情報を理解できるようになる。	・矢印の画像など感覚的なものだけで情報を提供するアイテムはない。 ・画像のみで情報を提供する場合、テキストによる識別情報も合わせて提供している。
	1.4.1	色の使用	A	色が、情報を伝える、動作を示す、反応を促す、又は視覚的な要素を判別するための唯一の視覚的手段になっていない。	・色の違いで情報に意味を持たせていない。 ・色の違いで伝えたい情報がある場合は、必要なラベルにテキストによる手がかりを含めるようにしている。
	1.4.2	音声の制御	A	ウェブページ上にある音声自動的に再生され、その音声3秒より長く続く場合、その音声を一時停止もしくは停止するメカニズム、又はシステム全体の音量レベルに影響を与えずに音量レベルを調整できるメカニズムのいずれかを提供する。	・3秒以上自動的に再生される音声を含むコンテンツはない。
	1.4.3	コントラスト（最低限）	AA	テキスト及び文字画像の視覚的提示に、少なくとも 4.5:1 のコントラスト比がある（ロゴ名、写真の一部など付随的なもの、大きな文字などは除外）。	・ロゴ名や写真などの付随的なものを除き、テキスト及び文字画像の視覚的提示に、少なくとも 4.5:1 のコントラスト比を確保している。

区分	達成基準 No	項目	レベル	概要/解説	がんセンターホームページの配慮事項
	1.4.4	テキストのサイズ変更	AA	キャプション及び文字画像を除き、テキストは、コンテンツ又は機能を損なうことなく、支援技術なしで 200% までサイズ変更できる。	・ズーム機能をサポートする一般に入手可能なユーザエージェントのあるウェブコンテンツ技術を使用している。
	1.4.5	文字画像	AA	ロゴなど必要不可欠なものを除いて、使用している技術で意図した視覚的提示が可能である場合、文字画像ではなくテキストが情報伝達に用いられている。	・文字を含むロゴの画像などには、テキストによる代替を設定している。 ・テキストの視覚的提示の制御については、原則として、CSS を使用している。
2 操作可能	2.1.1	キーボード	A	コンテンツのすべての機能は、個々のキーストロークに特定のタイミングを要することなく、キーボードインタフェースを通じて操作可能である。ただし、その根本的な機能が利用者の動作による始点から終点まで続く一連の軌跡に依存して実現されている場合は除く。	・可能な限り、コンテンツをキーボード又は（代替キーボードが利用できるような）キーボードインタフェースで操作ができるようにしている。 ・画面上のポインタを見つけたり、目で追ったりすることがしやすいよう工夫している。
	2.1.2	キーボードトラップなし	A	キーボードインタフェースを用いてキーボードフォーカスをそのウェブページのあるコンポーネントに移動できる場合、キーボードインタフェースだけを用いてそのコンポーネントからフォーカスを外すことが可能である。	・修飾キーを伴わない矢印キー、Tabキー又はフォーカスを外すその他の標準的な方法でフォーカスを外せるようになっている。
	2.2.1	タイミング調整可能	A	コンテンツに制限時間を設定する場合は、利用者が制限時間の解除や延長等を行うことができる。	・コンテンツに制限時間を設定する場合は、利用者が制限時間の解除や延長等を行うことができるようになっている。
	2.2.2	一時停止、停止、非表示	A	動きのある、点滅している、スクロールする、又は自動更新する情報は、一時停止できるなどの配慮が必要である。例えば、点滅しているコンテンツに気を取られ、ウェブページの他の部分に集中することが困難となる障害者などへの配慮が必要である。	・動きのある又はスクロールする情報は、一時停止できるようになっている。 ・点滅又は自動更新する情報はない。
	2.3.1	3 回の閃光、又は閾値以下	A	利用者が光感受性による発作を引き起こすことなく、サイト上のすべてのコンテンツを利用できるようにする。	・ウェブページには、どの1秒間においても3回を超える閃光を放つものがない。
	2.4.1	ブロックスキップ	A	複数のウェブページ上で繰り返されているコンテンツのブロックをスキップするメカニズムが利用できる。	・ページの先頭にコンテンツの各エリアへのリンクを追加するなど配慮している。
	2.4.2	ページタイトル	A	ウェブページには、主題又は目的を説明したタイトルがある。	・各ウェブページに、主題又は目的を説明したタイトルを付けている。
	2.4.3	フォーカス順序	A	利用者がコンテンツ内を一つずつ順を追いながら行き来している際に、キーボードにより操作可能な順序でコンテンツの意味に添って、情報と出会うようにする。	・キーボードの利用者でも、コンテンツ内を順番に行き来できるようにしている。
	2.4.4	リンクの目的（コンテキスト内）	A	それぞれのリンクの目的が、リンクのテキスト単独で、又はリンクのテキストとプログラムによる解釈が可能なリンクのコンテキストから判断できる。	・リンクのテキスト単独でリンクの目的が判断できる。 ・又はリンクのテキストとプログラムによる解釈が可能なリンクのコンテキストから、リンクの目的が判断できる。
	2.4.5	複数の手段	AA	ウェブページ一式の中で、あるウェブページを見つける複数の手段が利用できる。	・検索エンジンやサイトマップを提供することで、複数の手段によりコンテンツを見つけることができるように配慮している。
	2.4.6	見出し及びラベル	AA	見出し及びラベルは、主題又は目的を説明している。	・ウェブページにどんな情報があるのか分かるように見出しを記述している。
	2.4.7	フォーカスの可視化	AA	キーボード操作が可能なあらゆるユーザインタフェースには、フォーカスインジケータが見える操作モードがある。	・ユーザインタフェースのコントロールがフォーカスを受け取ると、その周りに視覚的に認識できる枠線が表示されるようにしている。
3 理解可能	3.1.1	ページの言語	A	それぞれのウェブページのデフォルトの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である。	・英文のページには、このページの自然言語が英語であることが分かるように配慮している、

区分	達成基準 No	項目	レベル	概要/解説	がんセンターホームページの配慮事項
	3.1.2	一部分の言語	AA	コンテンツの一節、又は語句それぞれの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である。ただし、固有名詞、技術用語、言語が不明な語句、及びすぐ前後にあるテキストの言語の一部になっている単語又は語句は除く。	・複数の言語で書かれているコンテンツはない。
	3.2.1	フォーカス時	A	いずれのコンポーネントも、フォーカスを受け取ったときに コンテキストの変化を引き起こさない。	・フォーカスを受け取ったときにイベントを起動することのできるすべてのコンポーネントは、コンテキストを変化させないようにになっている。
	3.2.2	入力時	A	データ入力又はフォームコントロールの選択の結果を予測可能にすること。ユーザインタフェース要素の設定を変更すると、コントロールの状態を変化させ、その状態は利用者がそのユーザインタフェース要素とのやりとりを終了した後も持続するようになっている。	・チェックボックス、テキストフィールド、リストコントロールなどではコンポーネントの設定を変更するが、リンク又はボタンを動作させるときは変更しないようになっている。
	3.2.3	一貫したナビゲーション	AA	ウェブページ式の中にある複数のウェブページ上で繰り返されているナビゲーションのメカニズムは、繰り返されるたびに相対的に同じ順序で出現する。	・繰り返されているナビゲーションのメカニズムは、繰り返されるたびに相対的に同じ順序で出現するようになっている。
	3.2.4	一貫した識別性	AA	ウェブページ式の中で同じ機能を有するコンポーネントは、一貫して識別できる。	・同じ機能が、複数のウェブページごとに設定されている場合、同じラベルを設定している。
	3.3.1	エラーの特定	A	入力エラーが自動的に検出された場合は、エラーとなっている箇所が特定され、そのエラーが利用者にテキストで説明される。	・文字検索以外入力フォームがない。 ・エラーメッセージは、できる限り具体的なものを設定している。
	3.3.2	ラベル又は説明	A	コンテンツが利用者の入力を要求する場合は、ラベル又は説明文が提供されている。	・どのような入力データが期待されているのかを利用者が理解できるように、説明文又はラベルを配置するよう配慮している。
	3.3.3	エラー修正の提案	AA	入力エラーが自動的に検出され、修正方法を提案できる場合、その提案が利用者に提示される。ただし、セキュリティ又はコンテンツの目的を損なう場合は除く。	・セキュリティ上設定していない。
	3.3.4	エラー回避（法的、金融、データ）	AA	利用者にとって法律行為もしくは金融取引が生じる、利用者が制御可能なデータストレージシステム上のデータを変更もしくは削除する、又は利用者が試験の解答を送信するウェブページでは、「取消」「チェック」「確認」する機会が与えられている。	・法律行為又は金融取引が発生するコンテンツはない。
4 堅ろう	4.1.1	構文解析	A	マークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、要素には完全な開始タグ及び終了タグがあり、要素は仕様に準じて入れ子になっていて、要素には重複した属性がなく、どのID も一意的となっている。	・マークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、要素には完全な開始タグ及び終了タグがあり、要素は仕様に準じて入れ子になっていて、要素には重複した属性がなく、どのID も一意的となっている。
	4.1.2	名前 (name) ・役割 (role) 及び値 (value)	A	すべてのユーザインタフェース コンポーネント（フォームを構成する要素、リンク、スクリプトが生成するコンポーネントを含むがこれに限定されない）では、名前 (name) 及び役割 (role) は、プログラムによる解釈が可能である。又、状態、プロパティ、利用者が設定可能な値はプログラムによる設定が可能である。そして、支援技術を含むユーザエージェントが、これらの項目に対する変更通知を利用できる。	・文字検索以外入力フォームがない。